

[総会資料と決定事項]

日本透析医会通常総会資料および主な決定事項

日本透析医会通常総会が平成 17 年 5 月 15 日（日）午後 2 時からホテルニュー神田（東京）にて開催された。以下に、その際の資料（抜粋）と主な決定事項を報告する。

- （社）日本透析医会通常総会資料
 - I 平成 16 年度事業報告書
 - II 平成 16 年度収支決算書
 - III 平成 17 年度事業計画（案）
 - IV 平成 17 年度予算（案）

平成 17 年度通常総会での主な決定事項

- （社）日本透析医会通常総会議事録
- （社）日本透析医会役員名簿

(社) 日本透析医会通常総会資料

第1号議案

平成16年度事業報告書

第1会議

総会

1. 平成16年度通常総会

- 平成16年5月16日
- 第1号議案 平成15年度事業報告及び収支決算の承認を求める件
 - 第2号議案 平成16年度事業計画及び予算の承認を求める件
 - 第3号議案 会費の見直しの承認を求める件
 - 第4号議案 経営および訴訟問題に対し相談できる顧問配置の承認を求める件
 - 第5号議案 その他

理事会

1. 平成16年5月16日

通常総会付議事項

- 第1号議案 平成15年度事業報告及び収支決算の承認を求める件
- 第2号議案 平成16年度事業計画及び予算の承認を求める件
- 第3号議案 会費の見直しの承認を求める件
- 第4号議案 経営および訴訟問題に対し相談できる顧問配置の承認を求める件
- 第5号議案 その他

常任理事会

1. 平成16年4月23日

協議事項

- (1) 秋葉先生の厚生労働科学班研究による院内感染予防マニュアルの出版、配布について
- (2) 株式会社クリオへの医会ホームページのリンクについて
- (3) 学術研究公募助成200万円について

報告事項

- (1) 医療廃棄物対策部会の会議報告について
- (2) 透析保険審査委員名簿とアンケートについて
- (3) 平成15年度厚生科学研究費補助金（肝炎等克服緊急対策研究事業）研究報告書の提出について
- (4) 平成15年度厚生労働科学研究費補助金（効果的医療技術の確立推進臨床研究事業）研究報告書の提出について

2. 平成 16 年 5 月 16 日

協議事項

- (1) 平成 15 年度事業報告及び収支決算の承認を求める件について
- (2) 平成 16 年度事業計画及び予算の承認を求める件について
- (3) 会費の見直しの承認を求める件について
- (4) 経営および訴訟問題に対し相談できる顧問配置の承認を求める件について
- (5) その他

3. 平成 16 年 6 月 25 日

協議事項

- (1) 顧問配置に対するホームページ掲載について
- (2) 研究助成の公募に対するホームページ掲載について
- (3) マニュアル（改訂版）の扱いについて
- (4) レセプト分析定点調査の実施について
- (5) 推薦名義の使用承認について
- (6) その他

報告事項

- (1) 改正年会費請求の進捗状況
- (2) 厚生労働科学研究費補助金「効果的医療技術の確立推進臨床研究事業（生活習慣病分野）」に係る研究課題の評価結果について
- (3) 平成 16 年度厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服緊急対策研究事業）に係る研究課題の評価結果について
- (4) 平成 16 年度厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服緊急対策研究事業）国庫補助の交付基準額等について
- (5) 平成 15 年度事業報告及び収支決算並びに平成 16 年度事業計画及び予算等の報告について（厚生労働省提出）

4. 平成 16 年 7 月 23 日

協議事項

- (1) ホームページの利用（災害対策委員会）について
- (2) 電子国土への参加について
- (3) 井上欣三教授の災害メーリングリストへの参加について
- (4) その他

報告事項

- (1) 透析医会奈良県支部長の就任について
- (2) 委員会報告について
- (3) マニュアルの訂正について
- (4) 日本医師会役員の就任祝いについて
- (5) 平成 16 年度厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服緊急対策研究事業）交付申請書の提出について

5. 平成 16 年 9 月 24 日

協議事項

- (1) 厚生労働省における環境配慮の方針について
- (2) 学術ビデオへの推薦名義使用について
- (3) その他

- 報告事項
- (1) 電子国土への参加の決定について
 - (2) 委員会報告について
 - (3) ホームページの立ち上げ（災害対策の情報交換等）について
 - (4) 京都府支部の立ち上げについて
 - (5) 平成 16 年度厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服緊急対策研究事業）の交付決定について
 - (6) その他

6. 平成 16 年 10 月 22 日

- 協議事項
- (1) ホームページの掲載（透析医療器具自主回収）について
 - (2) その他

- 報告事項
- (1) 公募助成について
 - (2) 中間決算について
 - (3) 委員会報告について
 - (4) レセプト調査の集計結果について
 - (5) HP の掲載（透析医療器具自主回収）について
 - (6) 災害医療協議会発足について
 - (7) その他

7. 平成 16 年 11 月 26 日

- 協議事項
- (1) 災害情報ネットワークメーリングリストへの登録者について
 - (2) ビデオ「新潟県中越地震と透析（仮題）」の作成について

- 報告事項
- (1) 新潟県中越地震に対する義援金について
 - (2) 研修委員会報告について
 - (3) 三者合同会議報告について
 - (4) 新潟県中越地震の視察報告について

8. 平成 16 年 12 月 17 日

- 協議事項
- (1) 次期診療費改定の対応について

- 報告事項
- (1) 新潟県中越地震義援金の状況報告について
 - (2) 平成 17 年度厚生労働科学研究費補助金申請について
 - (3) 平成 17 年度日本財団助成金申請について

9. 平成 17 年 1 月 28 日

- 協議事項
- (1) 義援金の残高使途について
 - (2) 支部長会（3 月）・保険審査懇談会（6 月）の開催について
 - (3) 災害マニュアルの作成について
 - (4) 株式会社サイトと透析医会 HP のリンクについて
 - (5) その他

- 報告事項
- (1) 日医役員（透析関係医）との話し合いについて
 - (2) その他

10. 平成 17 年 2 月 25 日

- 協議事項
- (1) ペイオフに備え経理の銀行口座分散について
 - (2) 支部長会議の開催について

- 報告事項
- (1) 広報委員会の報告について
 - (2) 平成 16 年度仮決算について
 - (3) ホームページの掲載（医療用具回収の概要）について
 - (4) 院内感染の発生に伴い会長の注意通知について
 - (5) 災害医療連絡協議会について

11. 平成 17 年 3 月 25 日

- 協議事項
- (1) 平成 17 年度通常理事会及び通常総会の開催について

- 報告事項
- (1) 研修委員会報告について
 - (2) ホームページの掲載（医療用具回収の概要）について
 - (3) 三者合同会議報告について
 - (4) ボランティアに対する補償について
 - (5) 防災情報収集及び連絡等について
 - (6) その他

第2 委員会

平成16年度委員会開催状況

(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

委員会	開催年月日	備考
1. 適正透析療法委員会		
(1) 適正透析導入部会		
(2) 維持透析療法部会		
(3) 適正透析普及部会	平成16年10月21日 平成17年03月06日	
(4) 適正医療経済部会	平成16年11月12日 平成17年03月11日 平成16年06月20日	3者合同部会 3者合同部会
(5) 医療廃棄物対策部会		
(6) 在宅血液透析部会		
(7) 医療制度検討部会		
2. 医療安全対策委員会		
(1) 災害時透析医療対策部会	平成16年06月19日	
(2) 感染症対策部会		厚生労働科学研究事業：班会議（C型肝炎感染対策・事故防止）で関連事項審議
(3) 医療事故対策部会		
3. 合併症対策委員会	平成16年08月04日	
4. 腎移植普及推進委員会		
5. 腎不全予防医学調査研究委員会	平成16年07月07日	
6. 研修委員会	平成16年07月23日 平成16年11月14日 平成17年03月06日	
7. 広報委員会	平成16年06月10日 平成16年10月22日 平成17年02月10日	
8. 情報管理委員会		
9. 内規委員会		
10. 倫理委員会		
11. 学会等助成審査委員会	平成16年04月23日 平成16年06月25日 平成16年07月23日 平成16年11月26日 平成17年01月28日 平成17年03月25日	
12. 学会等研究助成交付審査委員会	平成16年07月09日 平成16年07月27日 平成16年12月03日 平成17年02月04日 平成17年03月29日	

平成 16 年度委員会報告

1. 適正透析療法委員会

(1) 適正透析導入部会

透析導入者審査委員会設置支部（愛知）に助成した。
事業報告については 17 年度の日本透析医会雑誌に掲載する。

(2) 適正透析普及部会

（平成 16 年度 2 回開催）

- 1) 17 年度役員改選に向けて
 - 2) 18 年度診療報酬改定に向けて要望書のまとめ
- 以上について討議された。

(3) 適正医療経済部会

（平成 16 年度 2 回開催）

- 1) 医療改革の方向性について講演（松山幸弘氏）
- 2) 透析医療費の分析調査について検討し、病院及び診療所（179 施設）の協力を戴き、平成 16 年 6 月分外来透析レセプトの集計が行われた。報告については、17 年度の日本透析医会雑誌（Vol. 20-1）に掲載する。
- 3) 3 者合同会議を 2 回開催し、以下について討議された。
 - ① 自動回収装置を含む逆濾過促進型血液浄化法の今後
 - ② エンドトキシンフィルターと水処理
 - ③ 特定保健医療材料について
 - ④ 診療報酬改定マスター

2. 医療安全対策委員会

(1) 災害時透析医療対策部会

（平成 16 年度 1 回開催）

- 1) 新潟・福島豪雨と福井豪雨および台風 23 号、新潟県中越地震、福井県西方沖地震において情報収集・伝達活動を行った。
- 2) 第 5 回災害時情報伝達訓練を行い、28 都道府県 488 施設が参加した。
- 3) 引き続きインターネットの情報システムの構築を進めており、現在 16 支部に構築されている。「危機管理メーリングリスト」には、厚生労働省、日本透析医会災害情報ネット委員、日本透析医学会危機管理委員・統計調査委員・静岡県透析施設災害ネットワーク、神戸大学（危機管理・海上支援ネットワーク）、日本腎不全看護学会、臨床工学技士、医療機器・医薬品メーカーが参加し、212 アドレスが登録されている。併せて、これら情報システムおよび危機管理メーリングリストの保守管理を行った。
- 4) 新潟県中越地震の経験をもとに、「災害対策の検証」と「情報ネットワークの活動」について広く知ってもらうため各地域で講演を行った。

3. 合併症対策委員会

（平成 16 年度 1 回開催）

- 1) 平成 16 年度透析患者の合併症とその対策 No. 14「透析患者の ASO 動脈硬化」の発刊等について検討し、3 月に会員に送付した。
- 2) 患者の高齢化に伴う収容施設の相互連携に関する研究のために、実態調査について協議した。

具体的には ADL が低下して、通院はおろか日常生活でも介助を必要とする患者が増加しつつある現状を正確に把握する必要がある、アンケート調査の有用性を結論とした。

4. 腎移植普及推進委員会

社団法人日本臓器移植ネットワーク運営事業に協力する。

5. 研修委員会

(平成 16 年度 3 回開催)

(1) 支部医会の学術研究に助成した。

1) 広島県透析連絡協議会

研究課題：「低回転骨症に対する Vitamin K2 の有効性に関する研究 (controlled trial)」

2) 岡山県支部

研究課題：「透析医療における災害対策」

(2) 支部が開催した研修会・講演会に助成した。

支 部 名	会 場	開催年月日
青森県透析医会	十和田市市民文化センター	平成 16 年 6 月 6 日
鹿児島県透析医会	鹿児島県医師会館	平成 16 年 5 月 22 日
広島県透析連絡協議会	ホテルグランヴィア広島	平成 16 年 4 月 3 日
熊本県透析施設連絡協議会	熊本大学医学部総合研究棟	平成 16 年 5 月 16 日
		平成 16 年 5 月 23 日
北海道透析医会	札幌市ホテルニューオオタニ	平成 16 年 8 月 7 日
愛知県透析医会	名古屋国際ホテル	平成 16 年 11 月 28 日
大阪透析医会	三井アーバンホテル大阪ベイタワー	平成 16 年 11 月 13 日

(3) (社) 日本透析医会シンポジウムを開催した。

「透析患者の下肢閉塞性動脈硬化症の診断と治療」

日 時：平成 16 年 11 月 14 日 (日曜日)

午前 9 時 00 分～午後 3 時 50 分

場 所：津田ホール

司 会：阿岸鉄三 (板橋中央総合病院血液浄化療法センター)

古賀伸彦 ((医) 天神会古賀病院 21)

講演者：太田 敬 (愛知医科大学血管外科) ほか 8 名

(4) (社) 日本透析医会研修セミナーを開催した。

「透析医療における Current Topics 2005 透析の量と質」

日 時：平成 17 年 3 月 6 日 (日曜日)

午前 9 時 20 分～午後 3 時 35 分

場 所：品川コクヨホール

講演者：佐中 孜 (東京女子医科大学附属第 2 病院内科) ほか 5 名

(5) 17 年度のシンポジウムは平成 17 年 10 月 23 日 (日) 品川コクヨホールで開催することが決定した。な

お、講演内容はホームページに掲載した。

また、研修セミナーは平成 18 年 3 月 5 日（日）品川コクヨホールで開催することが決定した。

6. 広報委員会

（平成 16 年度 3 回開催）

(1) 日本透析医会雑誌の企画・編集等について、討議された。

(2) 医会雑誌 Vol. 19 No. 1 発刊

1) 透析患者の高血圧の薬物療法について

2) 血圧管理と予後

3) 透析患者の心機能障害と高血圧

4) 透析患者の体液管理

5) 低血圧の管理

6) 透析医療における Consensus Conference 2003—維持透析患者の血圧管理—

7) 医療機関の会計制度改定にどのように対応するか

—透析医療機関に求められる社会の流れへの注目と積極的な対応—

8) 平成 15 年十勝沖地震における災害情報ネットワークの活動報告

9) 地震の町にきた地震—平成 15 年十勝沖地震による浦河赤十字病院の被災—

10) 血液製剤の使用指針

11) 慢性腎不全に対する在宅療法—現状と課題—

12) 血液透析時間に関わる問題

13) 血管再生医療の現状

14) 第 7 回透析医療費実態調査報告書

15) 平成 14 年度千葉県における透析医療機関の感染性廃棄物の現状に関するアンケート調査（第 4 報）

16) 「透析療法指導看護師」認定制度発足にあたって

17) 岡山県における透析医療災害対策への取り組み

18) 透析症例の開心術

19) 透析骨症の新しい治療方針

20) 透析の原疾患と血液浄化法の種類

21) 腎性骨症の病態と治療

22) 最近の透析医療に感ずること

23) どうする未来の透析医療

24) 支部だより〈千葉県・愛知県・兵庫県・鹿児島県〉

(3) 医会雑誌 Vol. 19 No. 2 発刊

1) 塩酸セベラマーの臨床使用経験

2) 透析医療関連の事故分析

3) ブラッドアクセスインターベンションに用いられる最新デバイス

4) 16 列 multidetector-row CT (MDCT) による冠動脈画像診断の透析患者への応用

5) HDF—worldwide—

6) カルシウム・リンの管理は患者予後を向上させるか

7) 平成 16 年度診療報酬改定の要点（透析関係）

8) これからの医療と診断群分類（DPC）の活用

9) 病院機能評価を体験して

- 10) 災害情報ネットワーク会議と情報伝達訓練実施報告
 - 11) 熊本県 B 型肝炎ウイルス院内感染事故報告
 - 12) 透析と感染症—ウイルス感染を中心に—
 - 13) 当院および他施設アンケート調査による 10 年以上腹膜透析継続例の検討
 - 14) 多嚢胞化萎縮腎 (ACDK) の病態について
 - 15) 慢性腎疾患における骨代謝・骨疾患治療ガイドライン—透析患者を中心に—
 - 16) 慢性維持透析患者の下肢閉塞性動脈硬化症に対する外科的治療
 - 17) 血液透析用ブラッドアクセス—現状とその開存率向上を目指して—
 - 18) 各種栄養指標を用いた維持透析患者の生命予後に関する危険因子の検討
 - 19) ヒト腹膜中皮細胞の細胞外基質産生および細胞増殖に対する angiotensin II の影響について
 - 20) 北海道における高齢者透析並びに慢性透析患者の終末期医療—その現状と課題—
 - 21) 新潟県透析患者の QOL 調査の経年変化
 - 22) 日本透析医会通常総会資料および主な決定事項
 - 23) 透析医のひとりごと
 - 24) 最近の鹿児島県透析事情
 - 25) 支部だより〈佐賀県・宮城県〉
- (4) 医会雑誌 Vol. 19 No. 2 別冊発刊
- 1) 平成 15 年度厚生労働科学研究費補助金 効果的医療技術の確立推進臨床研究事業 長期透析に伴う合併症の克服に関する研究 研究報告書
 - 2) 平成 13~15 年度厚生労働科学研究費補助金 効果的医療技術の確立推進臨床研究事業 長期透析に伴う合併症の克服に関する研究 総合研究報告書
 - 3) 平成 15 年度厚生労働科学研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業
 - ・血液透析施設における C 型肝炎感染事故 (含: 透析事故) 防止体制の確立に関する研究
 - ・本邦の血液透析施設における C 型肝炎ウイルス感染の実態調査
 - ・透析医療における高感度 HCV 抗原検査の有用性の評価に関する研究
 - ・春日井市地区透析施設における透析患者の肝炎抗体陽性率の検討—1 年間の前向き調査—
 - ・透析室におけるウイルス性肝炎集団感染事故調査報告書に関する文献学的考察
 - ・「透析医療事故の定義」及び「透析医療事故 (ブラッドアクセス関連) の実態」に関する研究
 - ・院内感染および事故防止を考えた透析室施設基準の作成に関する研究
 - 「透析施設 (室) の医療自己評価票 (II)」を用いた透析室の現状と将来への展望—
 - ・「透析看護度と適正人員配置基準」に関する研究
 - ・透析医療における事故の実態把握と改善への取り組み—愛知県透析医会による調査—
- (5) 医会雑誌 Vol. 19 No. 3 発刊
- 1) 第 9 回透析保険審査委員懇談会について
 - 2) 感染性廃棄物処理マニュアルの改定
 - 3) 災害情報ネットワーク会議と情報伝達訓練実施報告
 - 4) 穿刺針逸脱の防止対策
 - 5) 浦河 QQ Index (Quick Quake Index) の考案
 - 6) 医工学治療における安全対策
 - 7) ヒューマンエラー発生のメカニズムとその防止対策
 - 8) 透析医療におけるグランドデザイン
 - 9) 多発性嚢胞腎の治療と合併症

- 10) 透析アミロイド症に対するリクセルの臨床応用
- 11) 透析患者における‘鉄の囲い込み’異常 (DIMES 症候群)—MIA 症候群はDIMES 症候群で起こるか—
- 12) 透析患者の薬物動態
- 13) 病院機能評価と透析医療
- 14) 長期透析患者でのブラッドアクセスに関する検討—現状および問題点と作成困難例での工夫—
- 15) 透析患者の高血圧の特徴と対策
- 16) ‘04 診療報酬改定と透析医療の将来
- 17) 透析医療におけるリスクマネジメント—医師の立場から—
- 18) 在宅透析が今、必要な理由と普及のための方策
- 19) 今になっての間違い
- 20) 支部だより 〈静岡県・長野県〉

7. 学会等研究助成審査委員会

(平成 16 年度 6 回開催)

以下のとおり学会及び調査研究について申請を受け、審査した。

学 会 等	開 催 日
第 20 回日本医工学治療学会	平成 16 年 4 月 21 日～23 日
第 11 回日本腹膜透析研究会	平成 17 年 10 月 29 日・30 日
第 16 回日本サイコネフロロジー研究会	平成 17 年 6 月 11 日・12 日
第 50 回日本透析医学会学術集会・総会	平成 17 年 6 月 24 日～26 日

研究課題	研究目的等
非糖尿病性腎症に対するアンジオテンシン II 受容体拮抗薬 (ARB) テルミサルタンとアンジオテンシン変換酵素阻害薬 (ACEI) リシノプリルとの非盲検下比較試験	保存期慢性腎不全の治療法の開発
維持透析患者の下肢閉塞性動脈硬化症に対する自己末梢血幹細胞移植	閉塞性動脈硬化症に対する血管再生医療
高齢腹膜透析患者の実態調査	高齢腹膜透析患者の健全な普及
JAPAN-KD study	保存期慢性腎不全のレニン・アンジオテンシン系抑制下における低蛋白食の意義
<ul style="list-style-type: none"> ・血液透析患者における血圧低下に対する超早期診断 ・血液透析用シャント機能に対する音響学的分析 ・透析膜の酸化ストレスマーカーの研究 ・透析患者・家族の社会参加等に関する研究 	公募研究

8. 学会等研究助成交付審査委員会

(平成 16 年度 5 回開催)

以下のとおり学会及び調査研究について審査した。

学 会 等	開 催 日
第 13 回腎不全外科研究会	平成 16 年 7 月 9 日・10 日
第 20 回日本医工学治療学会	平成 16 年 4 月 21 日～23 日
第 11 回日本腹膜透析研究会	平成 17 年 10 月 29 日・30 日
第 16 回日本サイコネフロロジー研究会	平成 17 年 6 月 11 日・12 日
第 50 回日本透析医学会学術集会・総会	平成 17 年 6 月 24 日～26 日

研究課題	研究目的等
保存期慢性腎不全患者における酸化ストレスと腎障害進行に与える影響	
非糖尿病性腎症に対するアンジオテンシン II 受容体拮抗薬 (ARB) テルミサルタンとアンジオテンシン変換酵素阻害薬 (ACEI) リシノプリルとの非盲検下比較試験	保存期慢性腎不全の治療法の開発
維持透析患者の下肢閉塞性動脈硬化症に対する自己末梢血幹細胞移植	閉塞性動脈硬化症に対する血管再生医療
高齢腹膜透析患者の実態調査	高齢腹膜透析患者の健全な普及
JAPAN-KD study	保存期慢性腎不全のレニン・アンジオテンシン系抑制下における低蛋白食の意義
<ul style="list-style-type: none"> ・血液透析患者における血圧低下に対する超早期診断 ・血液透析用シャント機能に対する音響学的分析 ・透析膜の酸化ストレスマーカーの研究 ・透析患者・家族の社会参加等に関する研究 	公募研究

平成 16 年度収支決算書

1. 収支計算書（平成 16 年 4 月 1 日から平成 17 年 3 月 31 日まで）

（単位：円）

科 目	予算 (A)	決算額 (B)	差異 (A)-(B)	備 考
I 収入の部				
1. 入会金収入	500,000	600,000	-100,000	
2. 会費収入	79,000,000	88,150,000	-9,150,000	
3. 寄付金収入	136,294,000	136,376,000	-82,000	
4. 義捐金収入		8,481,708	-8,481,708	
5. 参加費収入	400,000	439,000	-39,000	
6. 受取利息	2,000	772	1,228	
7. 雑誌・マニュアル収入	200,000	27,180	172,820	
当期収入合計 (A)	216,396,000	234,074,660	-17,678,660	
前期繰越収支差額	7,148,000	40,552,520	-33,404,520	
収入合計 (B)	223,544,000	274,627,180	-51,083,180	
II 支出の部				
1. 事業費				
透析医療適正化事業費	11,914,000	9,771,146	2,142,854	
医療安全対策委員会	10,237,000	7,128,520	3,108,480	
合併症対策委員会	3,777,000	4,920,391	-1,143,391	
腎移植普及推進事業費	5,788,000	6,022,312	-234,312	
腎不全予防医学調査研究費	112,000	46,971	65,029	
研修等事業費	10,046,000	11,234,101	-1,188,101	
広報活動費	11,000,000	14,622,969	-3,622,969	
情報管理委員会	0	0	0	
内規委員会	0	0	0	
倫理委員会	360,000	0	360,000	
学会等助成審査委員会	135,082,000	135,261,243	-179,243	
学会等助成交付審査委員会	546,000	65,323	480,677	
厚生科学研究推進（継続）委員会	907,000	88,590	818,410	
事業費合計	189,769,000	189,161,566	607,434	
2. 管理費				
人件費	13,365,000	12,434,353	930,647	
家 賃	2,350,000	2,333,076	16,924	
その他経費	9,060,000	6,738,689	2,321,311	
管理費合計	24,775,000	21,506,118	3,268,882	
3. 義捐金支出		5,000,000	-5,000,000	
4. 引当金預金支出		3,773,815	-3,773,815	
5. 予備費	2,000,000	0	2,000,000	
当期支出合計 (C)	216,544,000	219,441,499	-2,897,499	
当期収支差額 (A)-(C)	-148,000	14,633,161	-14,781,161	
次期繰越収支差額 (B)-(C)	7,000,000	55,185,681	-48,185,681	

2. 正味財産増減計算書（平成16年4月1日から平成17年3月31日まで）

（単位：円）

科 目	金 額		
I 増加の部			
1. 資産増加額			
固定資産（銀行預金）増加額	1,614		
退職引当預金増加額	3,773,815		
当期収支差額	14,633,161	18,408,590	
増加の部合計			18,408,590
II 減少の部			
1. 負債増加額			
退職金引当金繰入額	185,620	185,620	
減少の部合計			185,620
当期正味財産増加額			18,222,970
前期繰越正味財産額			205,880,897
期末正味財産合計額			224,103,867

3. 貸借対照表（平成 17 年 3 月 31 日現在）

（単位：円）

科 目	金 額		
I 増加の部			
1. 流動資産			
現金預金	55,972,909		
仮払金	57,700		
流動資産合計		56,030,609	
2. 固定資産			
(1) 固定資産			
銀行預金	162,004,814		
銀行預金合計	162,004,814		
(2) その他の固定資産			
電話加入権	563,372		
淡路建物ビル保証金	6,300,000		
警備保証金	50,000		
退職給与引当預金	3,773,815		
その他の固定資産合計	10,687,187		
固定資産合計		172,692,001	
資産合計			228,722,610
II 負債の部			
1. 流動負債			
会費預り金	268,000		
所得税預り金	410,333		
住民税預り金	48,900		
健康保険預り金	45,936		
厚生年金預り金	71,759		
流動負債合計		844,928	
2. 固定負債			
退職給与引当金	3,773,815		
固定負債合計		3,773,815	
負債合計			4,618,743
III 正味財産の部			
正味財産			224,103,867
（うち当期正味財産増加額）			(18,222,970)
負債及び正味財産合計			228,722,610

4. 計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 退職引当金の計上基準について

期末退職給与の要支給額に担当する金額を計上することになっている。

(2) 資金の範囲について

資金の範囲には、現金・預金、仮払金、未払金、及び預り金を含めている。
なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額の内容は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	47,014,502	55,972,909
仮払金	71,340	57,700
合 計	47,085,842	56,030,609
未払金	6,000,000	0
会費預り金	8,000	268,000
所得税預り金	312,713	410,333
住民税預り金	73,200	48,900
健康保険預り金	53,176	45,936
厚生年金預り金	86,233	71,759
合 計	6,533,322	844,928
次期繰越収支差額	40,552,520	55,185,681

5. 財産目録（平成17年3月31日現在）

（単位：円）

科 目	金 額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
現金 現金手許有高	50,557	
郵便振替	535,839	
普通預金 東京三菱銀行神田支店	4,432,952	
東京三菱銀行定期口神田支店	39,220,554	
みずほ銀行神田小川町支店	233,012	
三井住友銀行神田支店	961,796	
りそな銀行神田支店	3,200,002	
りそな銀行神田支店	100,052	
りそな銀行神田支店	50,121	
りそな銀行神田支店	600,100	
りそな銀行神田支店	100	
りそな銀行神田支店	3,481,817	
りそな銀行神田支店	105,949	
りそな銀行神田支店	3,000,058	
仮払金	57,700	
流動資産合計		56,030,609
II 固定資産		
1. 銀行預金		
東京三菱銀行（普通預金）	162,004,814	
銀行預金計	162,004,814	
2. 固定資産		
その他の固定資産		
電話加入権	563,372	
保証金 淡路建物ビル保証金	6,300,000	
警備保証金	50,000	
退職給与引当預金	3,773,815	
その他の固定資産合計	10,687,187	
固定資産の部合計		172,692,001
資産の部合計		228,722,610
III 負債の部		
1. 流動負債		
年会費預り金	268,000	
職員等に対する源泉所得税預り金	410,333	
職員等に対する住民税預り金	48,900	
職員等に対する健康保険預り金	45,936	
職員等に対する厚生年金預り金	71,759	
流動負債合計		844,928
2. 固定負債		
退職給与引当金	3,773,815	
固定負債合計		3,773,815
負債の部合計		4,618,743
正味財産		224,103,867

管理費内訳

(単位：円)

	平成 15 年度	按分率	按 分	
			管理費	事業費
人 件 費	24,868,706	50%	12,434,353	12,434,353
給 料	19,007,104	50%	9,503,552	9,503,552
賃 金	3,070,000	50%	1,535,000	1,535,000
法定福利費	2,416,592	50%	1,208,296	1,208,296
通 勤 費	375,010	50%	187,505	187,505
家 賃	4,666,152	50%	2,333,076	2,333,076
その他経費	14,940,247		6,738,689	8,201,558
旅費交通費	521,355	50%	260,677	260,678
会 議 費	0		0	0
交際接待費	0		0	0
福利厚生費	84,630	50%	42,315	42,315
印刷製本費	889,665	50%	444,832	444,833
通信運搬費	1,042,508	50%	521,254	521,254
事務・消耗品費	1,803,718	50%	901,859	901,859
委 託 費	1,864,230	50%	932,115	932,115
報酬（要源泉）	1,111,100	50%	555,550	555,550
水道光熱費	343,055	50%	171,527	171,528
諸 会 費	310,960	50%	155,480	155,480
租 税 公 課	0		0	0
慶 弔 費	0		0	0
雑 費	440,002	50%	220,001	220,001
常任理事会費	2,669,951		217,506	2,452,445
総会・理事会費	772,073		772,073	0
会員ソフト	3,087,000	50%	1,543,500	1,543,500
合 計	44,475,105		21,506,118	22,968,987


監査報告書

社団法人日本透析医会の平成16年度決算報告につき慎重に監査した結果
妥当なものと認めます。


平成17年4月15日

社団法人 日本透析医会


監事

鈴木 浩 

監事

岩月 史郎 

監事

伊原 美好 

社団法人 日本透析医会

会長 山崎 親雄 殿

第2号議案

平成17年度事業計画書（案）

事業計画の概要

1. 透析医療の適正化に関する調査研究事業

適正な透析療法の検討に関する調査・研究

適正透析療法委員会 [委員会のもとに7部会を置く]

① 透析療法の質的向上と普遍化を目的とする調査・研究

(1) 適正透析導入部会

適正な導入時期に関する調査・研究

(2) 維持透析療法部会

適正な維持透析療法に関する調査・研究

(3) 適正透析普及部会

適正な透析療法の普及推進を行う

(4) 適正医療経済部会

適正な透析医療経済に関する調査・研究

1) レセプト分析

2) 施設機能評価の調査・研究

(5) 医療廃棄物対策部会

・医療廃棄物対策に関する調査・研究

(6) 在宅血液透析部会

在宅治療（CAPD・在宅血液透析等）の適応基準の調査・研究

(7) 医療制度検討部会

・医療制度における透析医療との関連に関する調査・研究

2. 地域医療システムに関する調査研究事業

透析施設間の相互連携による地域透析医療システムを確立するための調査・研究

① 危機及び災害時における救急透析医療システムの作成に関する調査・研究

医療安全対策委員会 [委員会のもとに3部会を置く]

(1) 災害時透析医療対策部会

・平成14年度より、災害対策規程及び災害情報運用規則を設け、地域災害対策推進の拡大を図って来た。平成16年度は、新潟県中越地震災害時に災害時情報ネットワークを運用し、被災透析患者および透析施設等への支援対策に大いに貢献した。

・平成17年度は、引き続きブロック別災害時救急透析医療システムの構築を図るとともに災害時情報ネットワークに各都道府県の参加を推進していく。

(2) 感染症対策部会

院内感染実態調査及び感染防止対策の調査・研究

(3) 医療事故対策部会

医療事故実態調査及び事故防止対策の調査・研究

② 長期透析患者の合併症に対する調査・研究

合併症対策委員会

- (1) 透析導入の初発原因（原疾患・病因等）に関する調査・研究
- (2) 患者の高齢化に伴う収容施設の相互連携化に対する調査・研究
- (3) 患者の長期生存に伴い発生する合併症及びその原因に対する調査・研究

3. 国等公的機関の実施する透析医療科学研究推進事業

厚生科学研究推進委員会

[委員会のもとに1部会を置く]

透析医療IT化推進部会

① 平成17年度厚生労働科学研究計画について

- ・医療技術評価総合研究事業「透析施設における事故防止体制の確立に関する研究」（3年計画）について申請中

② 平成17年度日本財団助成金による研究計画について

- ・災害時医療支援船の運用計画準備調査と実施に関する研究（2年計画1年目）

4. 学術調査研究会等特定公益増進法人助成推進事業

学会等研究助成審査委員会

(助成先の適合審査の実施)

学会等研究助成交付審査委員会

(助成金の交付審査の実施)

① 平成16年度は、公募による研究助成4件を含む17件の助成推進事業を実施した。

② 平成17年度は引き続き、特定公益増進法人として助成推進事業の充実、拡大を図っていく。

5. 腎移植普及推進に関する事業

腎移植普及推進委員会

① 会員及び患者に対しての協力・普及を目的とする。

- (1) 臓器移植推進月間・腎バンク及び地方腎移植推進システムへの協力
- (2) 会員に対する腎移植の啓発・教育
(脳死問題を含む講演会及び腎移植広報活動等)
- (3) 患者に対する腎移植推進
(会員の日常業務として、地区患者を対象とする推進協力)
- (4) 関係団体への協力事業
(医療施設や遺族に対するドネーションの啓発)
- (5) 腎移植コーディネーター問題の研究

6. 腎不全予防医学の調査研究事業

腎不全予防医学調査研究委員会

① 透析導入を予防し、残腎機能を維持させるための調査・研究

- ・透析導入前の慢性腎不全患者に対する保存的維持療法の調査・研究及び関係団体への協力について推進する。

7. 研修等事業

研修委員会

- (1) 腎不全臨床医療スタッフの研修会（シンポジウム、セミナー）の開催

- (2) 学術研究への協力
- (3) 関係学会・団体との研究協力
- (4) 国内講演会等の開催

8. 広報活動及び刊行物の発行に関する事業

広報委員会

① 機関誌等の発行

- (1) 医会雑誌（年3回発行）
内容充実に一層の努力をする。
- (2) 医会ニュース・速報等
必要の都度、発行する。

9. 会員の教育・研修及び倫理向上に関する調査研究事業

倫理委員会

① 会員の倫理向上に関する調査・研究

10. 情報の公開等適正管理及び情報管理に関する事業

情報管理委員会

- ① 本会が保有する文書、図画、図面及び電磁的記録等の情報公開の管理、適正保管及びその創意工夫等の調査研究
 - ・平成14年度より、情報管理規程を設け、情報公開等の適正活用を推進している。
 - ・平成17年度は、引き続き既存ホームページの内容充実並びに関係団体への情報提供の拡大を図る。

平成17年度予算（案）

[収入の部]

(単位：千円)

区 分	平成16年度予算	平成17年度予算（案）	増 減
1. 入会金収入	500	600	100
2. 会費収入	79,000	88,330	9,330
3. 寄付金収入	136,294	164,450	28,156
4. 参加費収入	400	400	0
5. 受取利息	2	1	-1
6. 雑収入	200	0	-200
7. 前年度繰越金	7,148	7,000	-148
計	223,544	260,781	37,237

[支出の部]

(単位：千円)

区 分	平成16年度予算	平成17年度予算（案）	増 減
1. 事業費	189,769	230,322	40,553
2. 管理費	24,775	21,668	-3,107
3. 予備費	2,000	2,000	0
4. 次年度繰越金	7,000	6,791	-209
計	223,544	260,781	37,237

支出の部内訳

(単位：千円)

区 分	平成 16 年度予算	平成 17 年度予算 (案)	%	増 減
I 事業費 (調査研究事業費)	189,769	230,322		40,553
1. 適正透析療法委員会				
(1) 適正透析導入部会	564	546	0.20	-18
(2) 維持透析療法部会	909	885	0.40	-24
(3) 適正透析普及部会	1,308	1,289	0.60	-19
(4) 適正医療経済部会	7,357	9,057	3.90	1,700
(5) 医療廃棄物対策部会	702	682	0.30	-20
(6) 在宅血液透析部会	490	468	0.20	-22
(7) 医療制度検討部会	584	562	0.20	-22
2. 地域透析医療システム				
(1) 災害時透析医療対策部会	6,356	7,085	3.08	729
(2) 感染対策部会	3,881	657	0.29	-3,224
(3) 医療事故対策部会	0	824	0.36	824
3. 合併症対策委員会	3,777	3,582	1.56	-195
4. 腎移植普及推進委員会	5,788	5,671	2.46	-117
5. 腎不全予防医学調査研究委員会	112	5,783	2.51	5,671
6. 研修委員会	10,046	9,806	4.26	-240
7. 広報委員会	11,000	13,018	5.66	2,018
8. 情報管理委員会	0	0		0
9. 内規委員会	0	0		0
10. 倫理委員会	360	172		-188
11. その他の事業				
(1) 学会助成費	135,082	155,718	67.71	20,636
(2) 厚生科学研究推進委員会	907	0	0.00	-907
(3) 助成交付審査委員会	546	280	0.12	-266
(4) 日本財団事業		14,237	6.19	14,237
II 管理費				
1. 人件費	13,365	13,221		-144
2. 家賃	2,350	2,500		150
3. その他の経費	9,060	5,947		-3,113
III 予備費	2,000	2,000		0
IV 固定資産取得支出	0	0		0
V 次年度繰越金	7,000	6,791		-209
計	223,544	260,781		37,237

管理費内訳

(単位：円)

	平成17年度 (案)	按分率	按 分	
			管理費	事業費
人 件 費	26,443,000	50%	13,221,500	13,221,500
給 料	20,600,000	50%	10,300,000	10,300,000
賃 金	2,880,000	50%	1,440,000	1,440,000
法定福利費	2,500,000	50%	1,250,000	1,250,000
通 勤 費	463,000	50%	231,500	231,500
家 賃	5,000,000	50%	2,500,000	2,500,000
その他経費	13,438,320	50%	5,946,660	7,491,660
旅費交通費	600,000	50%	300,000	300,000
会 議 費	50,000		50,000	0
交際接待費	50,000		50,000	0
福利厚生費	200,000	50%	100,000	100,000
印刷製本費	600,000	50%	300,000	300,000
通信運搬費	1,300,000	50%	650,000	650,000
事務・消耗品費	2,300,000	50%	1,150,000	1,150,000
委 託 費	2,000,000	50%	1,000,000	1,000,000
報酬(要源泉)	1,333,320	50%	666,660	666,660
水道光熱費	350,000	50%	175,000	175,000
諸 会 費	300,000	50%	150,000	150,000
租 税 公 課	5,000		5,000	0
慶 弔 費	50,000		50,000	0
雑 費	500,000	50%	250,000	250,000
常任理事会費	3,000,000		250,000	2,750,000
総会・理事会費	800,000		800,000	0
管 理 費 計	44,881,320		21,668,160	23,213,160

平成 17 年度通常総会での主な決定事項

山崎親雄会長挨拶

本日はご多忙にもかかわらず総会にご出席いただきましてありがとうございます。

16 年度につきましては、総会資料の中にもありますように、新潟、福島の大雨、あるいは福井の大洪水もありました。それから、兵庫県の日高のほうの台風による水害、あるいは新潟の中越地震、いちばん最後に福岡の地震と、たいへんな災害続きでした。それぞれ被災されました施設におきましてはたいへんご苦労があったと思いますが、日本透析医会のリスクマネジメントといいますか、災害対策のためのメーリングリストなどでフォローアップすることによって、本当に充実することができたかなと、被災施設にとってはご不幸な出来事だったのですけれども、医会の仕事としてそういうものが少しずつできてきたのかなと感じております。

一方で、3 年間にわたりまして C 型肝炎の感染防止に関して班研究をやってまいりました。今年の 2 月に、ウイルス肝炎財団が主催する発表会がございまして、そのときに、広島大学の吉澤先生という、ウイルス肝炎の疫学調査を専門にやっておられる先生が、ちょうど私の発表の透析とウイルス肝炎のところの座長をやらせられて、本当にくやしい思いをしながら座長の紹介を聞いたのですが、「医療の中でこれだけ C 型肝炎が依然として残っているのは透析だけだ」という発言がございました。確かに、言われてみればまさにそのとおりのことだと思います。本当は歯科治療などもたいへん大きな問題があるのだらうと思っておりますけれども、透析の場合には、何と言いましても患者さんが引き続き来られてフォローできるものですから、圧倒的な多さなのです。悪い歯科治療のことを言っても仕方がありません。昔は、胃のファイバーなんかでもずいぶんあったと聞いておりますが、やはりなくなっていっております。ぜひ透析に関しましてもそういうものを撲滅したいと思っておりますが、2 月に宮崎県で、残念ながら集団感染が出てしまいました。もう班研究は終わったのですが、今後とも引き続き医会の事業として考えていきたいと思っております。

それよりも何よりも、本日も挨拶の中で皆さんにお話ししておかなければいけないことは、来年度の診療報酬改定に関する問題だらうと思っております。

平成 14 年で時間区分がなくなりました。時々僕は講演を頼まれて、そのスライドを持っていくのですが、75 歳以上の透析患者さんは、平成 14 年に診療報酬改定が行われて時間区分がなくなる前は、4 時間未満透析というのが 28% ぐらいでした。ところが、間もなく昨年の統計調査が出てくると思いますが、一昨年の統計調査を見ると、なんと 75 歳以上の 4 時間未満透析というのは 35% になっているのです。

これは、時間区分があったから 4 時間を守っていたのか、あるいは、その背景として、例えば、75 歳以上だから、本当は 4 時間やらなくてもいいんじゃないのかという考え方があったのか、果たしてそれが正しいかどうか、わかりません。

個人的な印象としては、高齢者といえども時間が長いほうが、回数が多いほうが、成績がいいかなとは思っておりますが、実際にはたくさんの検証が行われていない状況になっております。

来年の診療報酬改定に向かって、果たして時間区分を改めて要望するのかどうかというのは、会員の総意として考えるときにどうしたらいいものなのか、これから検討していかなければいけないところだと思います。

DOPPS 研究といいまして、インターナショナルな透析の成績比較が行われておりますが、これでははっきりと、短時間透析は予後が悪いという答が出てきておりますので、やはり我々としましては、ある程度の時間区分を改めて設けていただきながら、せめてそこが歯止めになるような工夫をしなければいけないと思っております。

一方、今年度担当いたします保険局医療課の麦谷課長は、こんなに分厚くなりました医科点数表の解釈（青本）というのがありますが、読めども読めどもわからないという……。たぶん皆さんそうでしょうね。僕なんか、長

い間審査をやってきましたので、そこそこわかるのですが、とても理解しにくい部分もたくさんあります。課長はあれを3分の1にしたいという提案をしています。

今、改定に対する要望の受け入れというルールが変わりつつあります。この6月いっぱいまでに、日本医学会に所属する分科会になっている関連学会については、保険局医療課が2時間ぐらいの時間をとりまして、学会の代表と、来年の診療報酬改定に関する要望を聞く時間を持っています。120ぐらいの学会がそれに対応します。ただ、残念なことに、透析医学会といえますのは日本医学会の分科会に認められておりませんから、透析医学会は内保連を経由して医師会経由で要望書を出さざるを得ないということになっております。

ただ、日本透析医会に関しましては、厚生労働省の認めるところの法人ですから、学会とはまったく別な形で要望書を提出することができるかなと思っておりまして、例えばこういうことも考えております。

現在、慢性維持透析患者外来医学管理料と言いまして、主たる検査はほとんど包括化されていて、胸のレントゲン写真も心電図も包括化されています。例えば、BAP（骨のアルカリフォスファターゼ）が新規に出てきますと、丸めていないものですからワーッといろいろな医療費が絡んできて、審査でレセプトを見ているとそういうものがいっぱい出てきます。

コメントさえ書いてあればいいのですけれども、いっそのこと、そういうものもなにもかも、将来を見据えて全部包括化してしまって、その代わり、点数をそこそこ付けていただきますと、いま青本の中で慢性維持透析患者外来医学管理料に書いてある記載というのはものすごい量が書いてあるのですが、そういうものも短くしながら、もしかすると点数が上がる方向に向くのかなという戦術も、考えていきたいと思っております。

幸いなことに、これも皆さんご存じだと思いますけれども、今年に入りまして会合もさせていただきましたが、現在の日本医師会の中に透析関連の理事が何人もお見えになりまして、非常に心強く、医師会を通じた要望もできるかなと思っております。しかし、今年になりまして医師会の先生方とお話したときに、透析をご自分のところでも手広くやっておられる先生方が理事なのですけれども、いろいろお話を聞いてみると、「理事になると、透析はなかなか風当たりが強いですよ。何かきちんとしたものを持たないで要望だけは無理ですね」という発言をされます。まさにそのとおりかなと思っておりまして、そのときにはこういうお話が出ました。前から僕はアドバルーンを上げていたのですけれども、施設基準みたいなものも考えなければいけない、あるいは職員の適正配置も考えなければいけないと言ったのですが、「そういうものを出しながらのほうがむしろわかりやすいですよ」というお話も聞いておりまして、実は班研究でほとんど、施設基準などに関しての基本的な考え方は出ております。あとは、これをそのまま出しますとたいへん問題になるものですから、例えば、この項目に関しては推奨度がAという、リコメンデーションがものによって違うような形ででも出すのかなとも思いますし、やっぱり出すとそれが足かせになるのかなと思っておりまして、たいへん悩むところではあるのです。

いずれにしても、今年度末、18年の診療報酬改定が、ほとんど将来の透析医療に関する道筋を、特に保険とか医療経済的な問題での道筋をつける改定になるのかなと思っておりまして、今年度はそういうつもりで頑張っていきたいと思っております。

一昨年臨時総会を開きまして皆さんのご了解を頂いて、日医総研にお願いして透析医療の15年後のグランドデザインというものを作成させていただきました。部分的に、昨年何月号でしたか、透析医会の雑誌にサマリーが出ておりまして、それで見られましたとおり、医療機関の経営形態によっては、すでにどうしても赤字は出ないという形態の医療機関もございます。このまま放っておきますと、本当に勝ち組・負け組という形の色分けができていくのかなと思います。

それから、特に民間医療機関に関しましては後継者の問題が非常に大きな問題になっておりまして、3月のカレントピックスのときにも、我々の仲間でした北海道の渡井先生が、後継者がいないからもう透析をやめたと宣言されました。愛知県にも「実は、もう後継者がいないからやめました」と言って患者さんを断られた医療機関があります。福島県でもそういうお話を聞いております。本当に全国的にそういうところが出てくる中で、それを透析医会は黙って見ていていいのか、非常に心詰まるものがあるのですが、果たしてそれに対してどのよう

な援助ができるか、まだわかっておりません。

いずれにしても、透析医会そのものの設立の趣旨であるとか、透析医会そのものの存続を考えますと、民間医療機関がきちんと経営が成り立って、そういう中で余裕を持って良質な医療が提供できて、患者さんの幸せがあるというのが、やはり望むべき道だろうと思っておりますので、ぜひこれに対して今年度は頑張っていきたいと思っています。

たいへん長くなりましたが、ちょっと心の中にありました思いを述べさせていただきます、ご挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

議 事

第1号議案：平成16年度事業報告及び収支決算の承認を求める件

第2号議案：平成17年度事業計画及び予算の承認を求める件

第3号議案：役員任期満了に伴う新役員承認を求める件

第4号議案：その他

出席者614名（会員数1,212名）にて総会成立。第1号議案～第4号議案を審議し全て承認されました。総会の主な内容については以下に要約し、最後に質疑応答に関して「Q&A」方式でまとめました。

平成16年度事業報告について

通常総会、理事会、常任理事会および各委員会の活動報告がされました。その中で主な内容について報告します。

1. 日本透析医会シンポジウム開催（平成16年11月14日、津田ホール）
「透析患者の下肢閉塞性動脈硬化症の診断と治療」について
2. 日本透析医会研修セミナー開催（平成17年3月6日、品川コクヨホール）
「透析医療におけるCurrent Topics 2005 透析の量と質」について
3. 厚生労働科学研究事業「血液透析施設におけるC型ウイルス肝炎感染の実態調査」
透析室におけるC型肝炎院内感染防止対策を提言。同時に透析医療事故防止対策、安全を考えた透析施設基準、スタッフの適正配置を検討し結果を報告。
4. 新潟・福井県豪雨（平成16年7月13日）から、台風23号、新潟県中越地震、福岡県西方沖地震（平成17年3月20日）など15件の災害に対して災害情報収集・伝達を立上げ活動。特に新潟県中越地震に対しては、災害対策本部を立上げ対策本部員を派遣、情報の収集と記録をVTR「新潟県中越地震と透析 速報版」に収め支部へ頒布。「災害対策の検証」と「情報ネットワークの活動」について広報。
5. 災害対策の一環として、デジタルネットワークを推進。現在「災害時情報伝達・集計サイト（ホームページ）」と「危機管理メーリングリスト」2本のネットワークを構築。「危機管理メーリングリスト」には、日本透析医会災害情報ネット委員（35支部95名）、厚労省健康局疾病対策課、日本透析医学会危機管理委員・統計調査委員、静岡県透析施設災害ネットワーク、神戸大学「危機管理・海上支援ネットワーク」、日本臨床工学技士会、日本腎不全看護学会、医療機器・医薬品メーカーが加入し、現在215アドレスを登録。尚、災害発生時には、被災地周辺の施設（メールアドレス登録の医会会員）を一時的にメーリングリストに登録し正確な情報の伝達を図っている。
6. 支部への助成については、2支部の学術研究に助成、7支部の研修会・講演会に助成。調査研究に対しては8課題（公募を含む）、全国規模の公募助成に対しては4研究に助成。

平成 17 年度事業計画について

平成 17 年度事業は基本的に前年度事業を継続することが承認されましたが、新規事業、重点項目としては以下のものが挙げられます。

1. 医療技術評価総合研究事業「透析施設における事故防止体制の確立に関する研究」（平成 17 年度厚生労働科学研究計画）について申請中。
2. 「災害時医療支援船の運用計画策定と実施」に関する研究（日本財団助成事業）
大規模災害時に、船舶を医療支援船に転用し、被災地近くの海域から被災者の救援にあたる計画をより具現化するための調査、災害時船舶支援についての一般の理解推進、災害時情報網としてのネットワークの開発を目的として調査・研究を計画。
3. 災害対策
阪神大震災後に厚生労働省の策定した「防災業務計画 人工透析の提供体制」ネットワークを確立するため、現在未加入の行政（都道府県、市町村）に「危機管理メーリングリスト」に加入を依頼すること、支部体制が出来ていない 12 支部に結成の援助をしていくことを計画。
4. シンポジウム開催：平成 17 年 10 月 23 日（日）品川コクヨホールにて予定
研修セミナー開催：平成 18 年 3 月 5 日（日）品川コクヨホールにて予定
講演内容については、ホームページに掲載予定。

平成 16 年度決算および平成 17 年度予算について

平成 16 年度決算は総会資料のとおり承認されました。

今年度は収入合計 234,074,660 円、支出合計 219,441,499 円、収支差額 14,633,161 円の黒字を計上できました。これは、会員数の増加と研究助成金（寄付金）が増加したことによります。

尚、新潟県中越地震の義捐金として皆様から 8,481,708 円の募金をいただきましたが、その中より 5,000,000 円を被災した 3 施設へ供出、残金 3,481,708 円を次回災害時義捐金として積立てました。

平成 17 年度予算案は総会資料のとおり承認されました。

16 年度の予算 223,544,000 円に比べ 37,237,000 円増の 260,781,000 円を計上しました。学会等研究助成費の増額と日本財団助成事業「災害時医療支援船の運用計画と実施」の調査・研究が開始されたため予算額が増加しました。

役員の任期満了に伴う新役員の承認について

本年度は 2 年に一度の役員改選に当り、従来の役員については引き続き役員の継続を推薦されましたが、常務理事の廣田紀昭先生（北海道）、理事の後藤武男先生（兵庫県）が辞任され、その後任を含めて推薦された方すべてが承認されました。

新規就任者は以下のとおりです。

常任理事 太田圭洋 先生（愛知県）

理事 戸澤修平 先生（北海道） 宮本 孝 先生（兵庫県）

なお、九州理事の隈 博政 先生（福岡県）は、今年度から常務理事に選任されました。

その他について

前年度、今年度に退任された理事の先生方、後藤宏一郎先生、後藤武男先生、廣田紀昭先生は、顧問として推薦され承認されました。

総会での質疑応答

Q：財産目録について、現在 162 百万円の銀行預金のペイオフ対策は何か考えているのでしょうか？

A：この預金は、日本透析医会の設立当初基本財産を持たなければならないという話があり、会員の皆様から集めた財産です。今までに「透析医療におけるグランドデザイン」や班研究「長期透析に伴う合併症の克服に関する研究（MINT）」などに使わせていただき現在 162 百万円残っております。これを東京三菱銀行の普通 決済型無利息預金に預けております。利息なしですがペイオフの対象にならない配慮をしております。

（文責 杉崎弘章）

(社) 日本透析医会通常総会議事録

1. 会議の種類 平成 17 年度 通常総会
1. 開催場所 ホテルニュー神田 3 階 306・307 号室 (東京都千代田区神田淡路町 2-10)
1. 開催日時 平成 17 年 5 月 15 日 (日) 午後 2 時 00 分～4 時 00 分
1. 会員総数 1,212 名
1. 出席会員数 612 名 内訳 本人出席 20 名 書面出席 592 名

1. 議事の経過

定刻に到り事務局長水本進氏から「本日の通常総会出席会員数は、定足数を満たしたので有効に成立した。」旨、告げられた。

初めに会長山崎親雄氏から挨拶があり、併せて本日の総会議長の選出が諮られ満場一致をもって吉田豊彦氏が選任された。

吉田議長は、挨拶に続き議事録署名人に鈴木正司氏及び小野山攻氏の両名を指名し両名とも満場一致で選任された。

続いて議案の審議に入った。

第 1 号議案 平成 16 年度事業報告及び収支決算の承認を求める件

常務理事山川智之氏から、総会資料に基づき事業報告について、1. 会議 2. 委員会 3. 会務報告の順に説明があり、併せて専務理事杉崎弘章氏から、収支決算について詳細な説明が行われた。引続いて監事鈴木満氏から「平成 16 年度決算の監査結果は、妥当であった。」旨、報告された後、議長による採決が行われ満場一致で承認された。

第 2 号議案 平成 17 年度事業計画及び予算の承認を求める件

常務理事山川智之氏から、総会資料により前年度事業実績に基づく 17 年度事業計画 (案) の概要の説明があり、続いて専務理事杉崎弘章氏から、予算 (案) の説明が行われた後、議長による採決の結果満場一致で原案どおり可決承認された。

第 3 号議案 役員任期満了に伴う新役員承認を求める件

会長山崎親雄氏から「辞任される廣田紀昭理事と後藤武男理事の後任には、戸澤修平氏と宮本孝氏を選任する。また、新たに太田圭洋氏 1 名を理事に加える。それ以外の理事の方々は総て再任とする。」旨、新役員選任 (案) の説明があり、議長による採決の結果、満場一致で原案どおり可決承認された。

第 4 号議案 その他

1. 顧問就任についての承認を求める件

会長山崎親雄氏から「今回役員を辞任される廣田紀昭氏、後藤武男氏および 15 年度に辞任された後藤宏一郎氏の 3 名について、顧問に選任したい。」旨、提案があり議長による採決の結果、満場一致で承認された。

2. 新潟県中越地震における義援金の報告について


会長山崎親雄氏から、新潟県中越地震における義援金の募金額と使途について報告があった。


午後4時00分をもって通常総会の議案総てを終了し、議長は閉会を宣し解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長並びに議事録署名人がこれに署名押印する。

平成17年5月15日

社団法人日本透析医会通常総会に於いて

議 長 吉田豊彦 

議事録署名人 小野山 政 

同 鈴木正司 

(社) 日本透析医会 役員名簿

平成17年4月1日現在

役職名	氏名	現職
会長	山崎 親雄	医療法人衆済会 増子記念病院附属則武診療所 所長
副会長	吉田 豊彦	医療法人社団誠仁会 理事長(みはま病院)
	大平 整爾	医療法人社団恵水会 札幌北クリニック 院長
専務理事	杉崎 弘章	医療法人社団心施会 理事長(府中腎クリニック)
常務理事	小野山 攻	医療法人小野山診療所 理事長
	鈴木 正司	社会福祉法人新潟市社会事業協会 信楽園病院 院長
	山川 智之	特定医療法人仁真会 理事長(白鷺病院)
	隈 博政	医療法人くま腎クリニック 理事長
	太田 圭洋	医療法人名古屋記念財団 名古屋記念病院
理事	井形 昭弘	名古屋学芸大学 学長
	太田 和夫	太田医学研究所 所長
	山下 眞臣	社会法人日本国民年金協会 理事長
	澤 宏紀	鈴鹿医療科学大学 学長
	前田 憲志	医療法人有心会 理事長(大幸砂田橋クリニック)
	藤見 惺	医療法人医心会福岡腎臓内科クリニック 院長
	松田 鈴夫	国際医療福祉大学 教授
	秋澤 忠男	和歌山県立医科大学 血液浄化センター 教授
(北海道)	戸澤 修平	医療法人クリニック1・9・8 札幌 理事長
(東北)	関野 宏	医療法人宏人会 理事長(宏人会中央病院)
(東北)	村上 秀一	医療法人三良会 村上新町病院 院長
(関東)	黒田 重臣	独立行政法人国立病院機構静岡医療センター 院長
(関東)	秋葉 隆	東京女子医科大学腎臓病総合医療センター血液浄化部門 教授
(甲信越)	土屋 隆	医療法人輝山会 理事長(輝山会記念病院)
(中部)	指出 昌秀	医療法人社団一秀会 理事長(指出泌尿器科)
(関西)	宮本 孝	医療法人平生会 理事長(宮本クリニック)
(関西)	小野 利彦	医療法人桃仁会 理事長(桃仁会病院)
(中国)	土谷 晋一郎	医療法人あかね会 理事長(土谷総合病院)
(中国)	原田 知	医療法人社団一陽会 原田病院 院長
(四国)	寺尾 尚民	医療法人尚腎会 理事長(高知高須病院)
(九州)	工藤 寛昭	医療法人杏和会 工藤医院 院長
監事	鈴木 満	医療法人松圓会 理事長(東葛クリニック)
	岩月 史郎	弁護士
	伊原 美好	公認会計士
名誉会長	稲生 綱政	医療法人大坪会 東和病院 名誉院長
	平澤 由平	社会福祉法人新潟市社会事業協会 信楽園病院 顧問